

梨の花

市川市立稲荷木小学校

〒272-0024 市川市稲荷木 1-14-1 Tel 376-5961

<http://www.toukagi-syo.ichikawa-school.ed.jp>

陰で支える 表で活躍する 一つになって起こること

校長 清田 博之

もう少しで、冬のオリンピックが始まります。オリンピック開催期間中はいろんなドラマが報じられますが、今回は 1998 年の長野冬季オリンピック、スキージャンプ競技で日本チームが金メダルをとったときのことを紹介したいと思います。

スキージャンプ団体競技は、1 チーム 4 人の選手がそれぞれ 2 回ずつ飛び、合計の得点を争います。4 年前のオリンピック、最後の 1 本で失速し金メダルを逃した日本チームは「今度こそ」という思いで優勝を目指していました。全チームが 1 本目を終える頃に、降っていた雪や風が強くなったため競技はいったん中断しました。その時の日本チームの順位は 4 位。2 回目で全員がいつも通りのジャンプを飛ぶことができれば優勝のチャンスは十分ある位置です。しかし天候はいっこうに良くなりません。審判団は、競技の中止を検討し始めました。このまま中止なら、日本チームは 4 位のまま長野オリンピックを終えることになります。審判団は、競技が安全に続けられることを確認するため、テストジャンプを行うことを決定します。テストジャンパーが通常通り飛ぶことができれば、2 回目のジャンプを始めることにしたのです。

テストジャンパーは 25 人。自分たちが安全にジャンプすることを証明しなければ日本チームの金メダルはない。誰か一人でも転倒したら、そこで競技の中止が決まるというプレッシャーの中、ジャンパー全員が「選手を絶対に飛ばせてみせる」と、雪の中、間を空けずにスタートしていきます。そして、テストジャンプの最後に飛んだのは、自分が選手として長野オリンピックに出るために怪我を乗り越えて努力したにもかかわらず、代表になれなかった葛西選手でした。葛西選手の大ジャンプと同時に競技の続行が決定しました。

テストジャンパーたちの貢献を知っていた日本選手は、どれだけ心が強くなったことでしょう。そして、日本チームは金メダルをつかんだのです。金メダルが決まった時に一緒に喜び、選手を胴上げしたのもテストジャンパーたちだったそうです。

何か大きな事を成し遂げる際に表に立ち、「光」が当たる人たちだけがとりあげられがちです。しかし、陰で支える「縁の下の力持ち」の存在を忘れてはいけません。表に立つ人も、陰で支える人もいます。同じ目的にむかってそれぞれの人々が本気で役割を果たすことで、一緒に喜び合える素敵なことが起こるのだと思います。

どんなことを成し遂げたいのか、自分のできることは何かを大事にしていきたいですね。



相談室だより

はじめまして

スクールカウンセラー：土岐 都子

（とき みやこ）です。

千葉県では、全中学校にスクールカウンセラーを配置しています。これに伴い、月一回ではありますが、昨年9月より小学校にも全校に派遣されるようになりました。

スクールカウンセラーは、お子様やおうちの方が悩んだり、不安に思っていたりすることについて、いっしょに考えることで問題を乗り越えるお手伝いをします。また、誰かにお話をするだけで、イライラやモヤモヤがすっきりするという方もいらっしゃると思います。どうぞ気軽にお声をおかけください。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

○相談場所：旧校舎1階 2・5年昇降口となりの「相談室」

○相談の仕方：①ドアの外の表示が「あいています」のときはすぐに
相談できます。

②担任の先生や教頭先生に事前に連絡することで、
予約をとることも可能です。

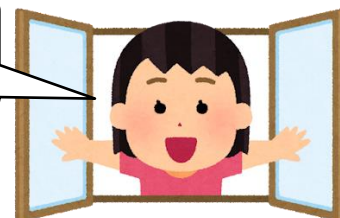
○相談の内容：学校や家の中のこと、友だちのこと、勉強のこと など

○相談できる人：稲荷木小学校の児童、または保護者

○相談日：今年度は、①2月18日（金）10:00～16:45

②3月11日（金）10:00～16:45 の2回です。

気軽に声をかけていただけたらうれしいです。



※「ゆとろぎ」とは違い、お子さんをお預かりしたり遊んだりする場所ではありませんのでご注意ください。